（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和４年４月１日

県立霧が丘高等学校長

令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組みの内容		校内評価		学校関係者評価 （３月　日実施）	総合評価（３月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①学校のミッション、生徒の実態、教育ニーズに即した新たな魅力と特色づくりを推進する。 ②インクルーシブ教育実践推進校としての取組みを推進する。 ③これからの時代に必要な資質・能力を育成するため、主体的な学びの向上、探究的な学びの推進、グローバル化・ＩＴ化への対応を見据えた取組みを行っていく。	①今年度から実施された新教育課程に各教科がスムーズに対応していく。 ②中高連携事業、研修、外部機関との連携等を通じ、共生社会の実現に向けたインクルーシブな学校づくりをさらに推進する。 ③1・2 学年を中心に ICT（iPad）を活用した授業研究を進める。	①新教育課程について、生徒のキャリアニーズや探究的な学びの習得に向けた科目の内容や選択ができているか検証していく。 ②連携生を対象とした学校設定科目の内容の精選と、希望進路の実現に向けた進路指導の充実化を進める。 ③ ICT（iPad）を活用した授業の研究や研修、教員向け講習等を行い、幅広く活用できるよう推進する。	①新学習指導要領の目的と学校教育目標を踏まえた上で実施できているか。 ②学校設定科目の内容の精選と、希望進路の実現ができたか。 ③ ICT を活用するにあたっての課題を共有し、解決に向けての取組みができたか。					
2	生徒指 導・支援	①自らの夢や目標に向かってチャレンジしながら未来を切り拓いていく力を育成するとともに誰もが霧高生であることにプライドが持てる活気ある学校づくりを行っていく。 ②多様性を受け入れ、他者を認め合い、支え合いながら主体的に課題を解決する力を育成するとともに、「インクルーシブな学校づくり」を行っていく。 ③規律と秩序のある生徒指導ときめ細かい支援体制を確立する。	①行事、委員会、部活動等、生徒主体の活動経験を丁寧に積み重ね、社会の様々な変化に対応できる柔軟な思考力、行動力を向上させる。 ②生徒対処研修会を通じ、互いの良さや多様性を認め尊重し合う力を育みながらインクルーシブな学校づくりを進める。 ③コロナ感染の収束が見えない中、変化する生活様式に適応できる規範意識の醸成を図る。多様な生徒の実態に応じた共通意識と指導体制の確立に努める。	①生徒主体の活動機会を広げ、変化し続ける状況や条件、人としての基やルールへの理解を深め、自ら進んで創意工夫を重ねられるよう支援する。 ②インクルーシブ教育に係る生徒研修会を年間４回以上開催し、多様性を認め問題を解決に向け考え実践する機会とする。 ③コロナ感染予防に対する生徒の行動の確認のホームルームでの声掛けや巡回指導で確認する。 ③人権に対する意識を養うための声掛けやポスターによる啓発をする。 ③個別の対応では、担任・生徒支援の教員による面談やケース会議を有効に活用していく。	①生徒主体の活動が増えたか。委員長会、部長会の活動を活性化できたか。 ①生徒の行事への満足度が向上したか。 ②研修会を通じ、相互理解や多様性を認め合う機会を設けることができたか。 ③生徒の日常における生活マナーができているか。 ③人権教育の講演などを実施した後の生徒の様子、アンケートから人権意識が向上したか。 ③面談や SC、ケース会議が有効に活用され、生徒の支援を組織的に行うことができたか。					

	視点	４年間の目標 (令和２年度策定)	１年間の目標	取組みの内容		校内評価		学校関係者評価 （３月　日実施）	総合評価（３月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①職業的・社会的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成し、自らの力で生き方を選択し、自己の未来を切り拓いていく力を育てる。 ②生徒一人ひとりが自らの意思によって将来の進路を選択し、自己実現を果たしていくための能力の育成に向けた指導・支援を行うとともに、生徒のあらゆる進路ニーズに対応したキャリア支援教育（進路指導）体制を構築する。	①自己の生き方と社会の課題を意識した計画的・系統的なキャリア教育を推進し、社会的自立に必要な力を継続的に育成する。 ②生徒一人ひとりがめざす進路実現に向け、目標達成のための様々なプログラムの提供と指導、情報発信をしていく。	①総合的な探究の時間を中心に、自己理解・他者理解を通して主体性・多様性・協働性を涵養する。 ②ポートフォリオの蓄積により、将来の目標の明確化、課題の発見、対策への取組み等を視覚化し、よりよい進路選択への一助とする。 ②引き続き外部資格・検定の校内実施を行い、受験機会を増やす。	①学年末の振り返りで行う生徒の自己評価で、変容を確認できたか。 ②ポートフォリオが蓄積でき、それを進路実現のためのPDCAサイクルに活かせたか。 ②資格・検定への取組みが増えたか。					
4	地域等との協働	①保護者や地域社会に対し、本校の教育活動についての理解を深めてもらうための積極的な情報発信と学校ＰＲを行っていく。 ②地域との交流や協働、地域貢献等を通じ、地域に開かれ、地域と共にある学校づくりに取り組む。	①学校ホームページ、学校紹介動画、学校説明会、チャレンジスクール、地域連携や行事などを通じ、保護者や中学生、地域住民に対し積極的な情報発信を行っていく。 ②社会の状況を踏まえつつ、地域や保護者等との連携、協働の機会を模索し、生徒の社会貢献、交流の経験値を向上させる。	①校内外の学校説明会を通じて、霧コンシェルジェをはじめとした本校生徒の活動を発信する。 ①学校ホームページを適切に更新するとともに、広報動画、活動動画等内容の充実を図る。 ②生徒が地域のために何ができるかを考え、また地域が霧高生とどのような関わりを求めているかなどの情報を集め、その機会や方策について研究し、実践する。	①説明会参加者へのアンケートで肯定的な回答が80%以上となったか。 ①ホームページ更新が月１回以上できたか。 ②地域や保護者等と連携した活動を実施することができたか。					
5	学校管理 学校運営	①保護者から信頼され、地域から愛される安心・安全な学校づくりを行う。 ②防災意識を高めるための防災教育を地域や保護者と連携しながら組織的に行っていく。 ③教職員が生き生きと教育活動に取り組むことができるための「働き方改革」をさらに推進していく。	①耐震補強工事中の安全を確保し、学習環境を整備する。 ②災害に対して、生徒の防災意識を高め、教員の組織的防災体制を確立する。 ③風通しの良い職場環境を醸成するとともに、事故・不祥事防止研修などを通じて事故・不祥事の未然防止に取り組む。	①工事による教育活動への支障ができるだけないように関係機関との調整を行い、安全安心で快適な学習環境づくりに努める。 ②校内防災組織の見直しを行い、防災訓練にて実践的な動きの確認を行う。それに伴い、防災関連の倉庫や備品の整備、危険個所のチェックを行う。 ③職員が主体となる事故・不祥事防止研修を定期的に開催する。	①工事中の学習環境を整え、生徒の安心安全を確保することができたか。 ②防災訓練を実践的な内容で実施できたか。 ③事故・不祥事防止研修を何回実施したか。また、不祥事ゼロを達成できたか。					